

令和7年度

学校経営方針



苫小牧市立拓進小学校

学 校 経 営 方 針

『児童の主体性・協働性・受容性の育成』 ～子どもの成長のために協働する学校～

1 はじめに

これからの社会は、情報化やグローバル化が加速的に進展し、様々な社会環境の変化や価値観の多様化も一段と進んでいくと言われている。飛躍的な技術革新により、Society5.0 の社会では、様々な情報を適切に収集し、分析して、社会の発展に活用することが求められており、一方では、少子高齢化、人間関係の希薄化、家庭の教育力の低下、子どもの生命・人権・貧困など多岐にわたる問題が山積している。さらに環境問題や新型コロナウイルスの感染拡大のような地球規模の新たな問題についても対応していかなければならない。

このような予測困難な社会を子どもたちが心豊かに健やかに生き抜いていくためには、初めて出会う様々な問題にも主体的に判断し挑戦し、他者と協働して知恵を出し合い、解決したり新たな価値を創造したりする力を育てていかなければならない。そのような資質・能力を子どもたちに身に付けさせるためには、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を保護者や地域と共有し、連携・協働しながら子どもたちを育て「社会に開かれた教育課程」の実現が重要である。また、学習指導要領を着実に実行し、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善の徹底を図り、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実と教育の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの推進を図ることが肝要である。

また、現在、学校ではいじめの重大事態や不登校の児童生徒が増加しており、特別な支援を必要とする児童生徒も増加の一途をたどっている。社会の価値観が多様化する中、保護者の考え方も多様化し、学校に通う子どもたちの個性や特性、課題も様々である。このような状況において、学校が子どもたちにとって安心・安全で楽しい場所となるためには、一人一人が価値ある存在として互いに認め合い、多様性を尊重し、相手の考えや感情を受け入れる寛容性や受容性を高めていく指導・支援が大切である。相手の立場や考え、気持ちを受け入れることで信頼関係は一層深まり、新しい発見や解決策を生むことにつながる。協働的な学びの充実を図る上でも受容性を育てていくことは極めて重要である。

以上の理由から、本年度の学校経営方針を、子どもたちに身に付けさせなければならない資質・能力として、「児童の主体性・協働性・受容性の育成」とした。

主体性：自ら考え決定し、責任をもって行動する姿勢

（自立した思考、行動力、責任感、自己管理）

協働性：他者と協力し、共通の目標を達成するために効果的に働く能力や姿勢

（コミュニケーション能力、チームワーク、柔軟性と適応力、共通の目標意識）

受容性：他者の意見や感情、価値観、文化などを理解し、尊重し、受け入れる姿勢や能力

（他者の価値観の尊重、共感能力、柔軟な姿勢、適応力）

さらに、いじめや不登校の問題をはじめ、子ども一人一人のニーズや特性に応じた教育の充実や児童虐待・ヤングケアラー等への対応、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る授業改善や働き方改革の推進など、複雑化・困難化する学校課題をよりよく解決し、子どもや教職員一人一人のウェルビーイングを実現していくには、保護者や地域、関係機関との連携・協働や学校の組織体制の強化による職員間の連携・協働の充実が不可欠である。互いに目標や課題を共有し、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たすとともに、教職員一人一人が専門性や自分のよさを安心して発揮し、互いに認め合い・助け合う学校づくりを目指し、副題を「子どもの成長のために協働する学校」とした。昨年度設定した地域・家庭・学校の合言葉「みんなでみんなを」も継続し、気運を高めていきたい。

2 学校経営の教育理念

北海道教育のめざす姿

【基本理念】	自然豊かな北の大地で、 世界を見つめ、自立の精神にあふれ 自ら夢に挑戦し、 実現していく人を育む	共生 ふるさとへの誇りと愛着を持ち これからの社会に貢献し、 共に支え合う人を育む
---------------	---	--

【教育行政に臨む基本姿勢】

自分や他者を価値のある存在として尊重し、相互に多様性を認め合い、自信を持って自らの夢や目標に向かい進んでいけるよう、多様な子どもたちを誰一人取り残さない教育を進めるとともに、子どもたちを支える教職員の働き方改革をはじめ、より良い教育環境の整備につながる施策を推進します。

【重点施策】

- 1 子どもたち一人一人の可能性を引き出す教育の推進
- 2 学びの機会を保障し質を高める環境の確立
- 3 地域と歩む持続可能な教育の実現

胆振管内教育の推進の重点

子どもの「よさ」を徹底的に伸ばす学校づくり ～学校、地域、社会のウェルビーイングの向上～
【重点達成の鍵】 学校、地域、社会のウェルビーイングの向上、精選・徹底・継続、役割連携の強化
 心理的安全性の確保、ゴールイメージの共有、エビデンスの活用、短期サイクルの創出

重点1 資質・能力の向上

- 自己調整しながら学びを進め、自立した学習者となるための指導方法の確立・共有・活用
- 運動やスポーツに意欲的に取り組む態度の醸成
- 自己存在感や自己有用感を高める取組の充実

重点3 生活・学習習慣の確立

- 生活リズムの改善に向けた取組の充実
- 目標設定や振り返り等を基に主体的に家庭学習を進める取り組みの充実
- 望ましい電子メディアの利活用の推進

重点5 教員の人材育成

- 教員育成指標を活用した取組の推進
- 「新たな教師の学びの姿」の実現に向けた取組の促進
- 不祥事根絶に向けた意識の醸成

重点2 特別支援教育の充実

- 障がいのある子どもの学びの場の保障
- 切れ目のない一貫した指導や支援体制の確立
- 管理職を含むすべての教職員の特別支援教育に関する専門性の確保・向上

重点4 地域との連携・協働

- 地域の問題解決に向けた行動を実践・発信する機会の創出
- 持続可能な地域づくりに向けた人材を育てるふるさと教育の推進

重点6 働き方改革の推進

- 「働きやすさ」と「働きがい」を両立するための学校における働き方改革の更なる加速化
- 北海道アクション・プランに基づく「質の高い学び」と「持続可能な学校」の実現

苫小牧市教育大綱

基本理念

未来の社会をつくるひとづくり

教育推進の指標

未知なるものに果敢に挑戦する自立の精神にあふれ、連帯と共生の豊かな心と活力にあふれる人を育てる（自立・連帯・共生）

13の基本施策

- 社会で生きる学びの推進 【1 確かな学力の育成 2 これからの時代に求められる資質・能力の育成 3 多様な価値を尊重する豊かな心の育成 4 体力向上・健康教育の充実 5 特別支援教育の充実】
- 学校・家庭・地域の思いをつむぐ体制の確立 【6 幼児教育の充実と学校段階間の連携・接続の推進 7 不登校児童生徒への支援の取組の充実 8 学校と地域の連携・協働の推進 9 学びのセーフティネットの構築 10 教育環境・学校施設・設備の充実】
- 全ての人が学び続け活躍できる社会の実現 【11 主体的に生涯学習を続け、郷土の発展を支えるひとづくり 12 いつでも誰とでも学べる環境づくり 13 芸術・文化・スポーツがいつも身近にあるまちづくり】

方針1：社会で生きる学びの推進

- 1 確かな学力の育成
 - ・多様な学びを自己選択・自己決定し、協働的な学びを通して個々の学びを深める授業の構築
 - ・「教える、与える」指導から「支える」指導への転換を図る教師の授業力を高める実践的研修
- 2 これからの時代に求められる資質・能力の育成
 - ・子どもたちが目的に応じてICT活用を選択し効果的に学習を進める情報活用能力の育成
 - ・世界の人と積極的に関わりや異文化理解を深める英語教育の創意工夫と国際理解教育の充実
- 3 多様な価値観を尊重する豊かな心の育成
 - ・自己有用感をもち、自他の命と心を大切に守り、よりよく生きるために必要な判断力や行動力を養うための道徳教育や人権教育の充実
 - ・多様性や異なる価値観を受け入れ、いじめのない温かな雰囲気になった学校が、子どもたちの手で主体的に進められるよう教育活動の創意工夫を図る
- 4 体力向上・健康教育の充実
 - ・高めたい運動技能や運動会を楽しむ習慣を身に付けるために、ICTを活用した思考場面や十分な活動場面を設定するなど、体育授業の創意工夫に努める
 - ・デジタル機器などの適切な利用習慣を推進するための学校・家庭・連携推進
- 5 特別支援教育の充実
 - ・すべての教師の特別支援教育の専門性の向上と医療や福祉との包括的支援体制の強化
 - ・適切な学びの場や進路選択の在り方について保護者と共に学べる機会の創意工夫

方針2：学校・家庭・地域の思いをつぐむ体制の確立

- 6 学校段階間の連携・接続の推進
 - ・体験・交流活動やカリキュラム連携、各教科の指導法に関する共同研集の充実
 - ・生涯にわたり主体的に学び続ける為に必要な資質能力を育む小中の連続性を重視した指導
- 7 不登校児童生徒への支援の充実
 - ・全小中学校に校内教育支援センターを開設し、子どもたちが安心して学べる場の保障と拡充
 - ・子どもや保護者を孤立させないS・SW等による支援体制の強化とフリースクールとの連携強化
- 8 学校と地域の連携・協働の推進
 - ・ふるさと苫小牧への理解や愛着を深め、夢や希望を語り、その実現に向けて意欲向上を図る専門的・体験的な学びの場の創意工夫
 - ・コミュニティ・スクールを中心に企業や地域と連携協働した特色ある学校づくりの推進
- 9 学びのセーフティネットの構築
 - ・ヤングケアラーや児童虐待、性に関する悩みなど、子どもたちが抱える生きづらさの解消に向けた、学校や福祉、関係機関による包括的支援の充実に努める
- 10 教育環境・学校施設・設備の充実
 - ・保健室の冷房化や学校の大規模改修、老朽化対策など学校施設の安全確保と学習環境の向上

方針3：全ての人が学び続け活躍できる社会の実現

- 11 主体的に生涯教育を続け、郷土の発展を支えるひとづくり
- 12 いつでも、誰とでも学べる環境づくり
- 13 文化・芸術がいつも身近にあるまちづくり

令和7年度 苫小牧市学校教育推進の重点

小中学校の9年間の確かな成長を目指して～生きて働く力を身に付けた15歳の苫小牧っ子～

重点1 資質・能力の向上

- 自己選択・自己決定による学びの創造と深化を通して資質・能力を高める教育の工夫改善
- 獲得した資質・能力を活用し伸ばすための各学校の組織的・系統的な取組及び学校間連携

重点2 豊かな心の育成

- 教育活動全体を通じた組織的・計画的な道徳教育の推進
- 全ての教育活動を通じて取り組むいじめ防止に向けた取組の促進

重点3 特別支援教育の充実

- 連続性のある多様な学びの場の整備と学校間等の連携の強化
- 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育の情実

重点4 自立を促す基本的習慣の確立

- 学校、家庭、地域との連携・協働による生活・学習習慣の確立と不登校対策の推進

重点5 学校と地域の連携・協働の推進

- 学校段階間の連携・接続の推進
- 社会との連携・協働による教育活動の構築

重点6 質の高い教職員集団の形成

- 専門性と強みを発揮できる教職員の育成
- 不祥事根絶に向けた意識の醸成

共通取組場面（見通す・決定する・協働する・振り返る）を全ての教科・全ての学級で！



◎希望の道を **たくましく進む**子の育成



◇めざす子ども

- ★つよい子・・・たくましく健康な心身をもつ子
- ★まなぶ子・・・正しさを求め、進んで学ぶ子
- ★やさしい子・・・思いやりの心もち、助け合う子

◇キャッチフレーズ「かしこく 仲よく かっこよく」
「できた わかった がんばった」
「あいさつ あんぜん あとしまつ」

3 学校経営の重点 <拓進小学校が目指す学校>

(1) たくましく生きるための健康な体づくりを進める学校 (つよい子)

「基本的な生活習慣の定着・運動の日常化」

- ・基本的生活習慣の定着と主体性を育むための家庭と連携した取組の推進
- ・「情報端末機器の約束」の指導と啓発
- ・感染症対策の継続
- ・運動環境の整備、体力づくりや体育授業の改善・充実

(2) 一人一人に主体的に学ぶ力と確かな学力を育てる学校 (まなぶ子)

「授業改善の徹底」

- ・主体的・協働的に学び、子どもが「できた」「分かった」を実感できる授業
- ・共通取組事項や共通取組場面の推進、専科・教科担任制による授業の質の向上
- ・ICTやタブレットの積極的な活用による個別最適な学びと協働的な学びの推進
- ・特別支援教育の考え方を活かした学習指導・学級経営の充実

「家庭学習の指導」

- ・主体的な学習習慣の確立、家庭学習の質の向上に向けた指導と連携

(3) 豊かな人間性を育て、他者を思いやる人を育てる学校 (やさしい子)

「不登校、いじめ問題への対応」

- ・自己肯定感や自己有用感を育む教育活動と縦割り班等による異学年交流の推進
- ・「生徒指導提要」やガイドブック・支援ツールを踏まえた取組の推進
- ・未然防止・早期発見及び事案対応、長期化・固定化の防止、自立支援
- ・児童会主体のいじめをなくそう集会、いじめを許さないルール作り
- ・道徳教育の充実（授業改善・授業公開、「道徳の日」の設定）

授業づくり

【共通取組事項】

- ・焦点化
- ・イメージ化
- ・視覚化

【共通取組場面】

- ・見通す
- ・決定する
- ・協働する
- ・振り返る

(苫小牧市教育委員会)

4 今年度の重点

チャレンジ拓進小～自己決定を全ての教育活動で～
「かしこく・仲よく・かっこよく」

学校経営方針を受けて、本年度の重点を「チャレンジ拓進小〜自己決定を全ての教育活動で〜」とした。子どもの主体性の育成は、学校教育において不易の部分であり、その重要性は今後も変わることはないであろう。そのような中で学校教育は今、「教える・与える」教育から、子どもを主語とした「支える」教育への転換が強く求められており、授業改善を中心に学校教育全体で、児童の主体性の向上を図ることの重要性が一層増している。以上のことから、子どもの主体性を高めるために、できることは何でもやる、試してみようという思いを全職員で共有し、教職員自ら主体的に授業改善や教育課程の改善に取り組むことを期して、重点とした。（「かしこく・仲よく・かっこよく」は子ども向けの重点として設定した。）

5 合言葉の設定

チームアプローチを進めるために！

地域・家庭・学校の合言葉

みんなで みんなを！

学校は学力向上や体力向上をはじめ、いじめ・不登校の問題、道徳教育や特別支援教育の充実、社会に開かれた教育課程やGIGAスクール構想の実現、コミュニティ・スクールの導入や働き方改革など、様々な課題を有しており、その解決には「チームとしての学校づくり」の推進が不可欠である。職員同士のつながり、学校と保護者・地域とのつながり、そして子ども同士のつながりを大切にして、一体感ある教育活動の推進を図っていききたいと考え、「みんなで みんなを ！」という合言葉を設定する。

6 今年度の重点取組事項

I 一人一人に主体的に学ぶ力と確かな学力を育てる取組

(1) 授業改善の徹底（主体的で分かる・できる授業づくり）

- 一体感ある指導の推進（単元・板書・ノート計画＜国語・算数＞の精査と改善、学習規律の徹底）
- 「主体的・対話的で深い学び」（共通取組事項・共通取組場面）の授業実践と評価・改善の推進と、研修活動の充実
- ICT等を活用した多様な学びと自由進度による児童主体の個別最適な学びと協働的な学びの推進
- 専科や教科担任制の推進による協働的な指導体制の構築と授業の質の向上
- 基礎学力の定着に向けた取組（補充学習、個別指導の充実）
- 授業における学校図書館活用の充実（司書教諭・学校図書館司書との連携）
- 通常学級における支援や配慮を要する児童への手立ての確立（授業のユニバーサルデザイン化）、組織的な対応の推進
- インクルーシブ教育（交流及び共同学習、特別活動）の充実に向けた連携・協働
- 支援が必要な児童の一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確化した授業実践
- 啓発学習等の積極的な公開

＜数値目標＞学習に関する児童のアンケートにおいて「授業内容が分かる」という回答を国語・算数90%以上にする。

(2) 主体的な家庭学習の指導の徹底

- 自主学習を中心とした毎日の学習習慣の確立
- 家庭学習の手引きの活用、調査による実態把握と改善指導、主体的な取組を促す家庭学習カードの活用及び保護者への啓発、授業と連動させた学習内容の指導、学習プリント等の常備
- 読書習慣を身に付ける取組の推進

＜数値目標＞家庭学習に進んで取り組むことができる児童の割合を、低学年85%以上、中・高学年90%以上にする。

Ⅱ 豊かな人間性を育て、他者を思いやる人を育てる取組

(3) 不登校・いじめ問題への対応(仲のよい学級・学校づくり)

- 主体性や自己有用感を高め、互いを認め合う学級経営(学級活動、学校行事、異学年交流等)
- 児童理解による信頼関係の構築(実態把握と情報共有)
- いじめや不登校への組織的な対応と関係機関等との連携
(学級→学年→生徒指導部・主幹教諭・教頭→いじめ防止対策委員会)
- 学習・生活規律の徹底(全職員による一体的・重点的な指導、納得感を高める指導)
- アンケート及び教育相談の充実
- 児童がつくる教育活動の充実(主体的な学校行事、児童会活動、縦割り活動等)
- 道徳教育の充実(年2回の「道徳の日」の設定、道徳授業の改善、保護者・地域への授業公開と連携に向けた情報発信)
- 挨拶運動の推進と相手や場に応じた言葉遣いの指導

＜数値目標＞児童アンケートで「学校は楽しい」という回答を90%以上にする。

Ⅲ たくましく生きるための健康な体づくりを進める取組

(4) 基本的生活習慣の確立・運動の日常化

- 基本的生活習慣の定着と主体性を育むための家庭と連携した取組の推進
- 「情報端末使用時の約束」の指導と啓発(ゲーム・スマホ安全教室の実施)
- 感染症対策の継続
- 危機回避能力を高める取組の推進
- 体力づくり、体育授業の充実「課題」「まとめ・ふり返し」の視覚化
- 主体的な体力作りに向けた取組(個人目標・実施計画/環境整備/評価、掲示コーナーの工夫)
- 新体力テストの分析と目標達成外種目の強化

＜数値目標＞児童アンケートにおいて「体育の授業でたくさん運動している」という回答を95%以上にする。

Ⅳ 総合的な学校力を向上させ、保護者・地域に信頼される取組

◎学校力の向上

- ★人材育成(ミドルリーダー・若手教員・ベテラン教員)
- ★教師力(資質・能力)、組織力の向上
- ★教育の質の向上を図る働き方改革の推進
- ★コアチームによる業務改善(業務内世の精選・重点化・定時退勤の推進等)
- ★危機管理への意識向上と体制確立

◎家庭・地域との連携

- ★ホームページ・さくら連絡網による学校の取組の発信、危機管理マニュアルの周知
- ★参観日・面談、オープンスクールの実施
- ★学校評価等による保護者・地域の意見、要望を踏まえた連携と取組の推進

◎エリア3校での連携

- ★コミュニティ・スクールによる地域連携、人材活用
- ★学校教育力向上エリア会議
- ★国語・算数・外国語・道徳における実践交流
- ★特別支援教育における支援体制の充実
- ★生徒指導等の情報共有
- ★系統性・統一性ある取組(学習指導・道徳教育・特別支援教育)⇒教育課程の改善

学校のキャッチフレーズ

～「かしこく 仲よく かつこよく」～

○学習に主体的に取り組み、確かな学力を身に付けるために努力をしよう「かしこく」

○友達の気持ちを考えて行動し、仲よくいじめのない学級・学校にしよう「仲よく」

○その学年としてふさわしい判断や行動をとり、粘り強く、人のために頑張ろう「かつこよく」

子ども向けのスローガンとして掲げ、子どもたちに「賢い」「仲がよい」「かつこよい」とはどういうことかを考えさせ、一緒に高め合おうとする意識を育みたい。学年・学級や個人の目標との連携を図りたい。

～「できた わかった がんばった」～

学校は、子どもたちが意欲的に学習に臨み、自己を成長させていく場である。そのためには、「わかった」「できた」「がんばった」という達成感を得る経験を積むことが重要である。児童一人一人が学校生活の中で楽しさを実感できる教育活動を展開し、一人一人の子どもに「できた」「わかった」「がんばった」という成就感・充実感を味わわせることができるような指導の充実を図る。

～「あいさつ あんぜん あとしまつ」～

○挨拶をすること、返事をするこゝの意味は、心を開いて相手に迫ること。よりよい人間関係の基本です。

○安全の意味は危険がなく安心なこと。安心の意味は「気にかかることなく心が落ち着いていること」つまり、安全とは危険がなく心が落ち着いていること。

○掃除（整理整頓）をすることの意味は5K（①きれいな場所にする ②心を磨く ③謙虚になれる ④感動の心を育む ⑤感謝の心が芽生える）で表され、気付く人になれること。

凡事徹底：当たり前前を当たり前前に行う（行わせる）

【1】きまり事（拓進スタンダード）を、確実に守る（守らせる）

——「規範」（当たり前前のこと）を「確実」（当たり前前）に行う（行わせる）

きまり事を確実に守る。時間を守り、整理整頓などをきちんとする。

【2】任されたこと（係・当番）を、いつでもしっかりと行う（行わせる）

——「役割」（当たり前前のこと）を「常時」（当たり前前）に行う（行わせる）

「校務」として任されていることを「常時」（いつでも）しっかりと行う。

【3】職務（学習・生活）を、周りに惑わされずに遂行する（遂行させる）

——「義務」（当たり前前のこと）を「専心」して（当たり前前に）行う（行わせる）

職務上の「義務」を、余計なことに煩わされずに「専心」して遂行する。

仕事ができる人とは「当たり前前ができる人」

1. 身だしなみが整っている

仕事ができる人は、仕事をお願いしたいと思える人。そもそも仕事とは他人からのお願いごと。お願いしたいと思える人は、TPOにあった身だしなみもきちんとしている。

2. 時間や期限を守る

仕事ができる人は、どんな状況でも約束の時間をしっかりと守ることを徹底している。期限＝時間を守ることと同じ。仕事をする上では、常に時間への意識を強く持つことが重要。

3. レスポンスが早い

仕事ができる人は、提出物や依頼した仕事に対する反応が早い。レスポンスが早い人は、相手への配慮があるとみなされて、信頼感も増す。自分が依頼した立場だったら、レスポンスが早いのはとてもありがたい。

4. 整理整頓ができている

整理整頓ができる人は、思考の整理もできるとよく言われる。整理整頓ができていると「仕事の効率化」「忘れ物の防止」「ミスの防止」「集中力がUP」の効果がある。

5. 気遣いができる

自分のことだけでなく、周りに気を配れることは重要。周りに発信する言葉も、丁寧な言葉で話すことは大切。気遣いができる人は、自分が困ったときに周りからも助けもらえる。見ていないようで周りには見ている。

6. 優先順位を把握して業務を進めている

業務の優先順位を決めて仕事に取り掛かることは非常に重要。優先順位を把握して業務を進めている人は、時間を最も有効活用できているとも言える。